

近藤 明子 米田 年恵 竹内 隆文 岡田恵美子 山川 和宣

小松島赤十字病院 薬剤部

要 旨

1998年4月当院は全面院外処方箋となり、それ以前より徐々に取り組んでいた薬剤管理指導業務（服薬指導）が、今では薬剤部の主たる業務となっている。それに伴い、内科糖尿病短期入院において薬剤師も医師、看護婦、検査技師、栄養士らと共に教育スタッフの一員として参加している。一方、循環器病棟では、1994年より、入院患者に薬剤部単独で月に1度、循環器用薬の作用、使用方法などについての説明をしていた。1998年12月からは、心筋梗塞、狭心症で加療中の患者に対し健康教室が開かれており、医師、看護婦とともに、薬剤師もスタッフとなり、服用中の薬について説明している。また、両教室で患者よりアンケートに回答を得られたのでその結果についても報告する。

キーワード：糖尿病短期教室、循環器健康教室、薬剤管理指導業務

はじめに

1998年4月より当院は全面院外処方となったため、外来患者の調剤が大幅に減少した。そのため、かねてより進めていた病棟業務に専念できるようになり、薬剤管理指導業務（服薬指導）が、現在は薬剤部の主たる業務となっている。病棟では、患者様への処方薬の配薬、配薬時の薬についての説明、服薬状況の確認など各薬剤師がそれぞれの活動を積極的に展開しつつある。なかでも、取り組みのひとつとして、内科糖尿病短期入院、循環器健康教室へのスタッフとしての参加を続けている。その内容と、各教室で得られたアンケート結果についても考察する。

薬剤管理指導業務

現在のところ、服薬指導を中心としている。平均在院日数の短縮もあり、指導件数は、順調に伸びている。（表1）

内科糖尿病教室への参加

当院で行われている糖尿病教室のスケジュールは（表2）のとおりである。講義は主に午後となっており、薬剤師は現在、第4日と第6日に、それぞれ約1

表1 薬剤管理指導件数

		480点	960点			480点	960点		
平成10年	4月	312	129	平成11年	4月	583	392		
	5月	328	135		5月	542	355		
	6月	478	306		6月	607	435		
	7月	498	339		7月	613	453		
	8月	450	257		8月	636	385		
	9月	431	293		9月	552	414		
	10月	508	380		10月	524	456		
	11月	464	369						
	12月	480	366						
	平成11年	1月	534		402				
		2月	458		426				
		3月	529		420				

平均在院日数 19.7日（平成10年度）

時間ずつ受け持っている。講義内容の項目を（表3）（表4）に示す。

第1回は糖尿病薬の薬効ということで、『糖尿病「おそれず あわてず あなどらず」』という三共株式会社作製のビデオを交えながらプリントを使用し解説している。1. 薬物療法の位置付けとして、十分な食事療法と運動療法の次にくるものであること。2. 経口血糖降下剤の種類と作用に加えて、ノスカル、ベイスン、グルコバイ、キネダックについても解説している。3. のインスリン製剤では種類と作用また作用

表2 糖尿病教室 スケジュール

	午前	午後	担当
第1日	入院	血液検査、尿検査、胸部レントゲン、心電図 オリエンテーション	看護婦
第2日	血液検査 腹部エコー	治療の重要性について 食品交換表の使い方 病態と治療法の概要について	医師 管理栄養士 医師
第3日	グルカゴン負荷 神経伝導速度	ビデオ学習 テーマ糖尿病とは 薬物療法	看護婦 医師
第4日	血糖日内変動	糖尿病薬の薬効 糖尿病の検査と自己血 糖測定法 運動療法	薬剤師 検査技師 医師
第5日	頸動脈エコー	インシュリン注射の説明 シックデイルールと自己管理 各人のデータと治療 方針の説明	看護婦 医師
第6日		服薬指導 合併症の具体的説明と対処法	薬剤師 医師
第7日	食事の計量	治療目標 外食の仕方と調理指導 合併症の予防と治療について	管理栄養士 医師 管理栄養士 医師
第8日		ビデオ学習、生活指導 テーマ 糖尿病の足病変 テーマ 糖尿病患者のための 日常生活の心得	看護婦

表3 第1回 糖尿病用薬の薬効

<ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオテープ「糖尿病の薬物治療について」 2. プリント使用の講義 <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法の位置付け 2. 経口血糖降下剤の種類と作用 3. インスリン製剤の種類と作用と保存方法 4. 副作用（医師の説明に沿って） 低血糖時の症状とその対策 ブドウ糖、ブドウ糖を含むジュースの紹介 5. 糖尿病性昏睡 6. シックデイ対策（医師の説明に沿って）
--

表4 第2回 服薬指導として（実際的なこと）

<ol style="list-style-type: none"> 1. プリント使用 <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な飲み方と留意点 2. 個々の薬剤についてももっとも効果的な服用時刻 3. 飲み忘れ時、食事を摂らない場合の対処方法 4. 相互作用 5. 薬を効果的に作用させるための日常生活での留意点 2. Q & A あらかじめ用意したQ & Aを用いる

時間の違い、保管方法について説明している。4. 副作用ではまずは低血糖時の症状とその対策に重点を置いている。対策では糖分の補給を説明しているが、ベイスン、グルコバイを使用中の患者が多い為ブドウ糖、またブドウ糖を多く含むジュースの紹介も行っている。その他ベイスン、グルコバイによる放屁、腹部症状、キネダックの尿着色などを説明している。他にもさまざま添付文書での記載はあるがいたずらに恐怖心をあおるようなことは避け、医師の説明にそって、ノスカル、ベイスン、グルコバイ、SU 剤の肝障害を説明し定期的な血液検査の必要性和、少しでも気になることがあれば受診時に申告するよう説明している。

5. 糖尿病性昏睡 これは薬物療法ではないが項目に加えている。6. シックデイ対策。これも医師の説明に沿って話をするが、特にインスリン注射中の方では、感染症の場合、食事を摂らないからといってインスリン注射を自己判断で中止しないよう念を押している。

2回目の講義は実際的な服薬指導として話をしている。1. 基本的な飲み方と留意点、2. 個々の薬剤についてのもっとも効果的な服用時刻として、ベイスン、グルコバイの食直前服用、キネダックの食前服用についてその作用のしかたを説明するとともに解説している。また経口血糖降下剤服用の場合には服用のあと必ず食事をする必要があることを強調している。3. の飲み忘れ時、食事を摂らない場合の対処方法では、服薬を忘れてしまった際に薬によっては飲む必要のないもの、合併症のための薬では、1日の回数に合わせた飲み忘れへの対応が必要となるため、薬を分類して解説している。4. の相互作用では、経口血糖降下剤の働きが強くなり低血糖の危険のある消炎鎮痛剤や抗凝血剤、低血糖を起こしやすくなるβブロッカー、血糖コントロールを乱してしまうステロイドホルモンなどを解説し、他科を受診する際にははっきりと自分の薬の名前が申告できるように覚えてもらうよう促している。5. 薬を効果的に作用させるための日常生活での留意点としては、食事療法、運動療法、体重や血糖値の自己管理、定期受診の必要性などを説明している。

次にQ & Aの利用であるが、これは予め用意したものをうい復習の意味合いも含めて、また講義に変化を持たせる意味でも有効な手段となっている。はじめて糖尿病について詳しく知るような方では、質問点自体が自分ではすぐに見つからないといったケースもあるようだが、Q & A では、そういった点を補うことが

できるため、のちのアンケートでも Q & A が良かった、わかりやすかったとの回答が寄せられている。

循環器健康教室への参加

循環器健康教室のスケジュールを（表 5）に示す。糖尿病教室と違い 1 泊 2 日と短期であるため 1 日目に通常の個別の服薬指導を行い、2 日目に患者様に集まってもらい、60 分ほど薬についてのまとまった話をしている。その場で、受講者からの質問もあり、また受講者同士の情報交換ができるような雰囲気作りとなっている。循環器健康教室での指導上のポイントとして服薬の主体が患者様であることに重点を置き、一般的な服用方法や代謝、排泄、年齢と薬の量との関連、薬同士の相互作用、薬と食品との関係などについて話している。相互作用では、ワーファリンのトロンボテスト値に影響を与える消炎鎮痛剤について、食品関係ではワーファリンと納豆やクロレラ、カルシウム拮抗剤とグレープフルーツジュースなどをとりあげている。

教室で得られたアンケートの結果とその考察

今回おこなったアンケートの内容は、1. 服薬期間 2. 薬の名前を知っているか 3. 薬の作用を知っているか 4. 薬の主な副作用を知っているか 5. 教室での説明に対しての感想 6. 自由記載欄の 6 項目である。（図 1）

内科では、服薬は初めてといった方が約 30%、薬の名前や作用、副作用についても、今回知った、詳しく知ったという方が 50% から 75% をしめている。初めての服薬の方を差し引いても、薬について知識をもたないまま服薬している方が多いことが示された。重要な副作用である低血糖症状とその対策を含め、まとまった知識をもっていただくという点で教室での薬剤師からの説明も意義があると考えている。また 50 歳台の方で 5 年以上服薬しているにもかかわらず、薬の名前すら覚えていなかった方もおられたため、服薬期間を問わず丁寧な指導が必要なようである。次に教室での説明に対して、わかりやすいと答えた

表 5 循環器 健康教室 スケジュール

第 1 日	午前	血液検査、検尿 心臓超音波検査 運動負荷試験 24時間心電図
	午後	疾患に対する講義（循環器医師） 眼底検査
第 2 日	午前	服薬指導（薬剤師） 生活指導（看護婦）
	午後	運動療法の指導（循環器医師） 眼科受診 総合判定（循環器医師）

方が 66%、逆に個別の方が良いと答えた方が 33% おられ、個別指導を希望されるかたの中には、他科の薬も持っているため、それについて知りたい方、また教室

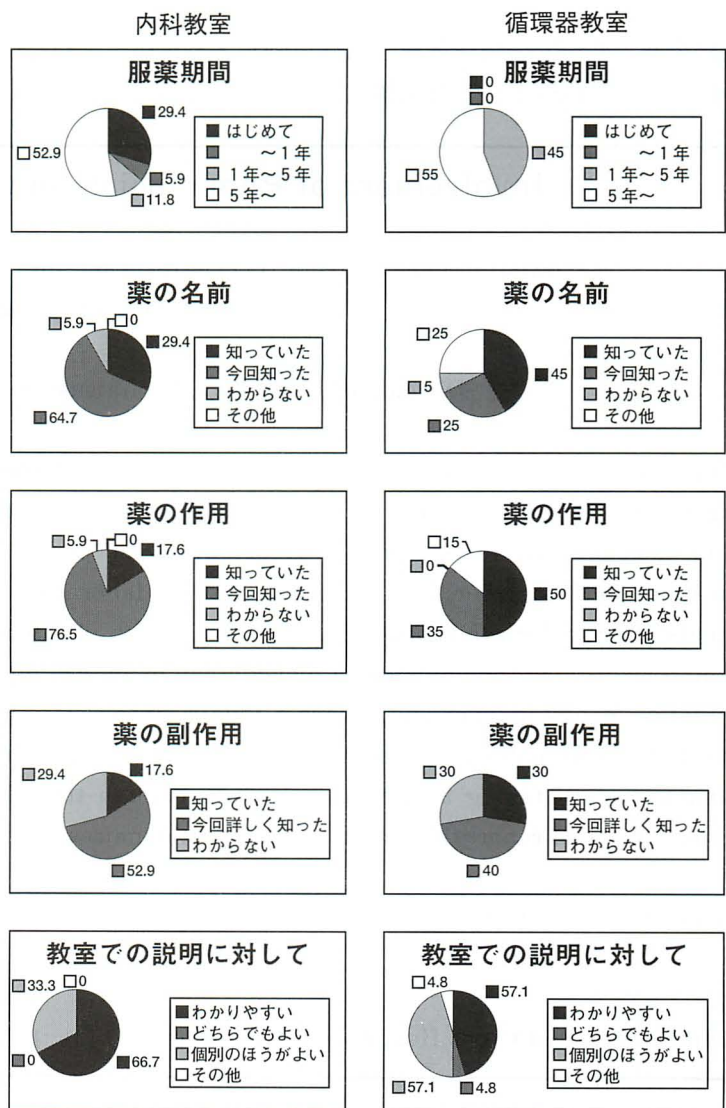


図 1 アンケート結果

では理解しづらかった方などが含まれているようである。薬局の場合は個別の指導もおこなっているのです。その点はカバー可能である。

一方、循環器の方では、服薬期間は皆1年以上であり(1999年7月現在)服薬5年以上の方が半数以上であった。薬の名前、作用については、知っていたと答えた方が50%近くにのぼり、薬に関心のある方が多いという印象である。それだけにアンケートの自由記載欄には、相互作用についてさらに詳しく知りたいとか、市販薬の効能の強さについて聞きたい、また、食べ物と薬の関係をもっと知りたいなどの記入があり、詳しい説明を希望される方も多いようである。

おわりに

内科教室、循環器の健康教室ともに、同じような疾患を持った患者様同士、それも罹病期間の異なる方同

士が、ひとつの部屋でお互いの経験(バッグに缶ジュースをいれている、ニトロではスプレー剤も使いやすい)や、疑問点などを話し合える場の提供ができていたのでは、と考えている。他の人の質問によって、自分の思い込みが訂正される(ワーファリンとバファリンを勘違いし、バファリンを服用しているにもかかわらず納豆を食べてはいけないと思ひ込む、市販のバファリンと病院のバファリンとの違い)など、教室でのメリットは多いようだ。また、担当者も患者様に気軽に発言してもらえようとの雰囲気作り、言葉かけなどを巧みに行い、時間も配分している。個別指導だけでは得ることのできないものを患者教室はもっているようだ。今後も患者様に知識を持っていただくことはもちろん、患者様同士の情報交換の場を提供するというねらいも含めて患者教室への参加、工夫を重ねたいと考えている。

Involvement of Pharmacists in the Works in a Ward

Akiko KONDO, Toshie YONEDA, Takafumi TAKEUCHI, Emiko OKADA
Kazunori YAMAKAWA

Division of Pharmacy, Komatsushima Red Cross Hospital

Since April, 1998, extramural dispensing has been adopted totally for our hospital and instruction on drug control (instruction on the use of dosage) which was dealt with little by little before has become the major task of pharmacists now. Accordingly, the pharmacists are also participating as members of education staff together with doctors, nurses, laboratory technicians and dietitians for the diabetic patients of short-term hospitalization in the Division of internal medicine. Meanwhile, in the Division of circulatory organs, the pharmacist division had explained inpatients about the effects and method of use of circulatory drugs independently once a month since 1994. From December 1998, a health class has been opened for the patients receiving treatments for myocardial infarct and angina pectoris and the pharmacists are taking a part as a staff to explain the administered drugs together with doctors and nurses. We also report the results of the questionnaires conducted in both classes.

Key words : Short-term class for diabetes mellitus, health class for circulatory organ diseases, instruction for drug control

Komatsushima Red Cross Hospital Medical Journal 5:141-144,2000
